

第4回鴨川市学校適正規模等検討委員会会議 会議録

1 日 時 令和5年9月28日(木) 午後7時00分から8時30分

2 場 所 天津小湊支所3階会議室

3 鴨川市学校適正規模等検討委員会委員 15人

(1) 出席者 14人

所属等	氏名	所属等	氏名
鴨川小学校PTA代表	角野 晴美	東条小学校PTA代表	石井 智樹
西条小学校PTA代表	刈込 高志	田原小学校PTA代表	脇坂 和弘
鴨川小学校 学校運営協議会代表	井藤 機句男	東条小学校 学校運営協議会代表	小倉 健一
西条小学校 学校運営協議会代表	庄司 利男	田原小学校 学校運営協議会代表	鈴木 勝博
鴨川認定こども園 保護者代表	蛭子 美穂	西条認定こども園 保護者代表	山下 真矢
田原認定こども園 保護者代表	松本 真弓	認定こども園OURS 保護者代表	山本 恭子
公募	座間 弘之	公募	荒井 眞由美

(2) 事務局出席者 16人

教育長	鈴木 希彦	田原小学校長	前田 桂子
教育次長	山口 昌宏	市民福祉部長	鈴木 克己
学校教育課長	関口 和則	子ども支援課長	田中 忍
学校環境整備室長	佐々木 正信	課長補佐	刈込 豊
学校環境整備室員	上野 哲	鴨川認定こども園長	佐藤 康子
	久保 和正	西条認定こども園長	高橋 由美子
鴨川小学校長	三浦 徹	田原認定こども園長	伊東 智子
東条小学校長	石井 聖一郎		
西条小学校長	高梨 美佐子		

4 会議次第

1 開 会

2 教育長挨拶

3 議 事

(1) 鴨川地区小学校・認定こども園の適正規模の検討

① 小学校の適正規模の検討

② 認定こども園の適正規模の検討

(2) その他

4 閉 会

5 会議内容

別紙のとおり

6 会議の傍聴者等

傍聴者7名

1 開会

(午後7時00分会議開始)

佐々木学校環境整備室長

それでは定刻となりましたので、ただ今から「第4回鴨川市学校適正規模等検討委員会・会議」を開会させていただきます。本日は、大変お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。本日は、齋藤委員から欠席の連絡を受けておりますので、ご報告させていただきます。本日の資料の確認をさせていただきます。事前に送付させていただいた資料でございますが、何カ所かの修正、追加がございましたので、本日机の上に置かせていただいている資料と差し替えをお願いいたします。閉会后、郵送した資料は、机の上に置いて、お帰りいただければと思います。大変申し訳ございませんでした。よろしく申し上げます。本日お配りいたしました資料です。ホッチキス留めの「第4回鴨川市学校適正規模等検討委員会会議次第」で始まる資料でございます。1枚めくっていただいて資料1といたしまして、「4校統合・3校統合」という資料、1ページ2ページ、資料2の3ページ「認定こども園の適正規模の検討について」でございます。以上でございます。別冊で「参考」として郵送させていただいております「第3回鴨川市学校適正規模等検討委員会会議録」となりますが、前回会議の中で指名された刈込委員に内容の確認をしていただき、署名をいただいた後に、市のホームページなどに公表をさせていただきますが、委員の皆様からの発言等に誤り、訂正等がありますでしょうか。よろしいでしょうか。また、本日も会議はおおむね1時間30分程度、午後8時30分頃の終了を目安として進めて参りたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。説明は以上でございます。何かご質問等ございますか。それでは、本日、会議の傍聴を希望される方が7名お見えでございます。これから傍聴者に入場させていただきますので、しばらくお待ちください。

(傍聴者入場)

次に会議次第の2になります。教育長からごあいさつを申し上げます。

鈴木教育長

みなさんこんばんは。お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。台風13号は予想を超える被害をもたらしました。土砂災害で道路が通行止めになり、あるいは家が浸水して大変な思いをされている方もたくさんいらっしゃいました。学校はと申しますと、この近くの安房東中学校では、体育館が床上浸水しました。長狭学園では、トイレの下水が噴き出しそうになる状況がありました。また、鴨川小学校や田原小学校は、雨漏りが激しく、鴨川小学校は近くの加茂川があと数センチで氾濫するまで水がきました。ただ、おかげさまで今も万全とはいえませんが、保護者、地域の皆様のご協力をいただき、なんとか教育活動には支障がなく今日を迎えております。まだまだ復旧活動を続けている地域の方々には心よりお見舞いを申し上げます。さて、早いもので、この適正規模等検討委員会も第4回を数えます。前回の庄司議長から、「西」という漢字を用いてとてもわかりやすいお話がございました。

私たちが今立ち向かっている難題に対しては、どんなご意見も正解なのだろうと考えております。これまで何もないゼロベースでスタートしまして、いよいよ3校統合とか4校統合とか大枠ができたところでございます。今日はその枠の中で、様々な角度から具体的なご意見をたくさんいただきたいと存じます。ここは決定機関ではございません。最後は教育委員会が皆様のご意見をもとに責任を持って決めさせていただきます。安心してご自分の考えを公表していただければと存じます。できるだけたくさん意見を頂戴できることを願っております。また、いつもはオブザーバーとして、ここに同席してくださる教育関係者にもご意見を頂戴したいと考えております。ご指名がありましたら、ぜひご自身の経験を活かしたお話をいただきたいと思っております。それではどうぞよろしくお願いいたします。

佐々木学校環境整備室長

続きまして、次第の3、議事に移らせていただきます。それでは、以後の議長は、庄司委員長にお願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

庄司委員長

それでは、ただ今から議長を務めさせていただきますので、委員の皆様のご協力方、よろしくお願い申し上げます。この会議も見えているものと見えていないものがあります。見えにくいものに対し、教育長がおっしゃったように、遠慮せずにご意見をいただきたいと思っております。事務局が今日は工夫してご意見をいただくようなものを用意してくださっているので、これにできるだけ多くのご意見をいただければと思っております。よろしくお願い申し上げます。

それでは、本日の会議次第に沿いまして進めさせていただきます。本日の会議録の確認をしていただく委員は、井藤委員を指名させていただきますのでよろしくお願い申し上げます。それでは、議事に移らせていただきます。議事の(1)「鴨川地区小学校・認定こども園の適正規模の検討」の①小学校の適正規模の検討②認定こども園の適正規模の検討についてでございます。事務局に説明をいたさせます。それではお願いします。

佐々木学校環境整備室長

学校教育課からは、資料1ページ、2ページの4校統合と3校統合について、資料に沿いましてご説明させていただきます。2回目アンケートにて、回答をいただいた委員の全員の皆様から、「鴨川地区小学校の統合は必要である」との結果をいただきました。また、統合数の選択の間には、4校統合8人、3校統合7人、2校統合はいませんでしたので、前回会議において、委員の皆様「4校統合か3校統合」で今後、検討していくという結論になりましたので、4校統合・3校統合に絞っての説明とさせていただきます。委員の皆様方には、本委員会での答申に向けて、検討・協議をお願いいたします。

まず、1ページの4校統合です。令和8年度、9年度の児童数、標準学級数を掲載しております。令和9年度には、児童数671人、2年生が3クラス、他4クラス計23クラスの推計となっております。また、第1回会議資料の3「今後の推計児童数」からの計算でいきますと、30年後の令和35年度には、児童数515人、各学年3クラスの計18クラスが想定されます。2ページの3校統合です。令和9年度には、児童数359人、5年生が3クラス、他2クラス計13クラスの推計となっております。30年後の令和35年度には、児童数233人、各学年2クラスの計12クラスが想定されます。東条小学校は、令和35年度には、児童数282人、各学年2クラスの計12クラスが維持できることが想定されます。左のページに戻っていただきまして、1.基本事項としてあげさせていただきました。4校統合の場合ですが、①統合小学校の通学区域は、鴨川地区全域とする。②統合小学校の校舎・体育館等は、土地を新たに鴨川地区学区内

に確保し新設する。続きまして、右ページの基本事項をご覧いただきたいと思います。3校統合の場合ですが、1. 基本事項①統合小学校の通学区域は、現3小学校区域（鴨川・西条・田原）とする。②統合小学校の校舎・体育館等は、通学区域内に設置（新設または既存施設の改修等の検討）が必要となります。続きまして、左に移っていただいて、2. 統合小学校に対する配慮の内容につきましては、4校統合・3校統合いずれも、同じ内容の記載となっております。①スクールバスの運行を検討する。②1校あたりの児童数が増加することに対して、児童数に伴い配置される指導方法工夫改善、専科教員等の加配教職員を活用し、習熟度別指導やチームティーチング等のきめ細やかな指導体制を整備することができる。これは4校、3校統合両方にいえることであります。続きまして、3. 3校統合と比較した場合の優位点につきましては、関口課長の方から説明します。

関口課長

皆さん、改めましてこんばんは。お忙しい中、いつもありがとうございます。学校教育課の関口です。よろしく申し上げます。私からは、資料1の3. 3校統合・4校統合と比較した場合のメリットについて、ご説明いたします。なお、大変恐縮ですが、事前に配付いたしました資料につきまして、幾つか訂正させていただきながら、説明をさせていただきます。また、本日、配付させていただきましたA3版の用紙「資料1（比較表）」には、改めて、本日、配付させて頂きました会議資料1、2ページの3. 3校統合・4校統合と比較した場合のメリットの訂正部分も含め、1枚にまとめさせていただきましたので、こちらをご覧ください。なお、こちらの表ですが①～⑤までございますが、それぞれの項目の下の部分に薄い桃色で色づけした部分、空白の欄がございます。この欄につきましては、この後私の方からそれぞれ項目ごとに簡単にご説明させていただきますが、私の話等々を聞いていただきながら、気がついたこと、ご質問又はご意見等々をメモとしてまとめていただければ幸いです。また、説明の後に、多少時間もとっていただけるということですので、考えを整理していただく意味でも、メモ用紙をご活用していただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

まず、資料1では、2ページに渡って、4校統合、3校統合のメリットをそれぞれ挙げておりますが、これは、4校と3校を比較した場合に、多くの場合「どちらかという」とこういったメリットがある、また、現在の各校の状況を考えたとき、こんなメリットが考えられるというものでございまして、その一部を記載したものです。皆様に検討していただく、一つの材料となればと考え、記載したものでございますので、予めご了承ください。

それではご説明させていただきます。それでは、まず、①の学習面をご覧ください。事前に配付致しました資料では、4校統合のメリットとして「多様な考え方に触れ、認め合い、協力して切磋琢磨することを通じて、資質や能力を伸ばしやすい。」としておりましたが、これは、学年内に複数学級がある場合のメリットでありますので、4校統合のみではなく、3校統合の場合もあてはまると考えられることから、両方のメリットとして挙げさせていただいております。事前に送付した資料と異なりますので、訂正させていただきます。なお、4校統合のメリットとして、令和9年度においても各学年ともに、100人以上の学年となるため、「学校行事や集団教育活動に活気が生じやすい」の他、「学習活動や学校行事等において、ダイナミックな企画、運営を設定しやすい。」を追加させていただきました。これに対して、3校統合の場合のメリットとして、令和9年度においては、学年50人から70人台となっていることから、「児童1人ひとりに目が届きやすく、きめ細やかな指導が行いやすい。」や「学習活動や学校行事等において、個別の活動機会を設定しやすい。」ことを挙げさせていただいております。なお、

先にお配りした資料には「学校行事やクラブ活動等において」となっておりましたところを「学習活動や学校行事等」に訂正させていただいておりますので、ご了承くださいませようお願いいたします。次に、②の生活面をご覧ください。②につきましての変更点はございませんが、ここでも、4校統合は学年100人以上、3校統合は学年50人から70人程度を見込んで記載したものでございます。まず、4校統合のメリットとしては、「豊かな人間環境の構築や多様な集団の形成」の他、学校全体での組織的な指導体制を組みやすいことを挙げました。次に、3校の場合ですが、集団全体の母体が少なくなることで、人間関係の深まりや異学年交流が生まれやすいなどを挙げました。続いて、③の運営・財政面でございます。ここでも当初皆様に配付させていただいた資料には、4校のメリットとして、「教員数が多いため、経験、教科、特性などのバランスのとれた教員配置を行いやすい」とさせていただきましたが、学年2学級以上の場合でも、児童数に対する教職員数の割合があまり変わらないことから、3校統合でも同様のことがいえます。従って、本日配付させていただいた資料には、両方のメリットとさせていただいております、ご了承ください。なお、4校のメリットとして、「組織的な学年経営を行いやすい」を追加させていただきました。これは、逆をいえば、3学級以上になると、主任を中心に組織的に学年経営をせざるを得ない状況にあるとも言えます。3校のメリットは、「教職員の意思疎通や相互連携、施設・設備の利用調整のしやすさなど」記載のとおりでございます。次に、会議資料では、4.懸案事項の①として記載してございますが、本日、配付しましたA3版資料には、④校舎等とさせていただきます。こちらは事前にお配りした資料との変更点はございません。児童にとって、安全、安心かつ快適な空間を考えた場合は、このようにするのが理想かと考えての記載でございます。最後に、会議資料ですと、④A3版資料ですが⑤の、その他をご覧ください。まず、4校の欄ですが、2つ目の記述「鴨川地区全児童が集約されるため、人口減少を見通しても複数学級を維持できる可能性が高い」となっておりますが、事前にお配りした資料では、「複式学級」となっておりますが、これは「複数学級」の誤りです。訂正をお願いします。また、3校の欄に「小規模化し、30年後は学年40人前後で1クラス20人前後の学級となる見込みだが、児童及び保護者と学校との関係は、より密となる可能性が高い」と追記いたしました。以上でございます。加除修正がありましたこと、訂正し、お詫び申し上げます。よろしくお願いたします。私からは以上でございます。

佐々木学校環境整備室長

最後に懸案事項ということで書かせていただいております。まず、4校統合につきましては、①については、校舎・体育館・グラウンド等設置のための、学校敷地を新たに整備する必要があると考えます。土地の取得費用、長期的な買収交渉等が生じることも予想されます。②につきましては、両方に書かせていただいておりますが、県立安房特別支援学校鴨川分教室も併せて検討すると書かせていただいておりますが、今、鴨川小学校の校舎へ来ていただいております。千葉県立の建物ですので、この委員会で検討するような内容ではありませんが、市教育委員会として考えていかなければということなので書かせていただいております。次に3校統合の懸案事項です。①ですが、校舎・体育館・グラウンド等設置のための学校敷地を整備する、既存学校敷地・既存施設を利用できるのではと考えております。学校教育課からは以上でございます。

田中課長

子ども支援課の田中です。よろしくお願いたします。それでは、子ども支援課から、3ページ目の資料2を説明させていただきます。はじめに基本事項といたしまして、(1)の認定こども

園 OURS についてですが、認定こども園 OURS は、私立園のため統合はできないと考えています。また、小学校が4校統合し、建築場所によっては現在の場所に OURS が残ることが懸念されます。次に、(2)の分離型2園についてですが、鴨川認定こども園及び田原認定こども園は、施設が分離型のため0歳児から3歳児と4歳、5歳児は別々の棟で生活していることが現在課題となっています。それに加え、それぞれの園舎の老朽化も進んでいることから、早急に一体型の園にすることが必要と考えており、一体型の園にすることで、0歳児から5歳児までの教育、保育の連続性がより一層充実し、保護者もきょうだいの送迎や行事への参加などの利便性も高くなると思われます。また、鴨川認定こども園につきましては、川の近くであり災害の際、危険であることから早急に移転をしなければならぬと考えます。次に、(3)の配置基準についてですが、認定こども園は国の配置基準で、保育教諭1人に対して0歳児が3名、1歳児と2歳児が6名まで、3歳児が20名まで、4歳児と5歳児が30名までを保育できることとなっております。また、保育室の有効面積による定員も定められておりますことから、園ごとに子どもの定員や職員の配置人数が違います。

次に、2の統合による優位点についてですが、先ほど説明させていただきましたが、国では職員の配置基準が定められています。統合した場合は、現在、本課での課題でもあります年度途中で0歳、1歳児を預かりやすくなる等、より保護者のニーズにあったサービスの拡充や運営ができることが考えられます。また、園を統合することにより、保育教諭不足の解消や経費の削減につながると思われます。

最後に3の小学校との関係についてですが、年長児と小学1年生との交流など保幼小連携を推進している本市にとっては、小学校敷地内にこども園があることが理想と考えます。また、小学校敷地内もしくは近くに園を移転することにより、小学生のきょうだいがいる場合は行事や送迎等も一度で済むことが多くなるなど、利便性も高くなると思われます。いずれにいたしましても、統合小学校の近くに、こども園があることが望ましいと考えています。以上、子ども支援課から説明させていただきましたが、今後、建築場所や広さ、予算や送迎等に関することなども考慮し、検討する必要があると思われます。以上です。

庄司委員長

ありがとうございました。第1回から第3回までは事務局からのお話から即、質問、ご意見をいただきました。私の進め方の問題かもしれませんが、一人一人を指名しておりません。挙手をお願いしていました。そのおかげで1時間半の中で発言していただかなかったケースもできて、それを事務局も心配していると思って、こういった工夫をしてくださったと思います。そこで、関口課長からの説明に則って、質問の前にここにメモとして書いていただく時間を設けましょうか。これはこのままここに残していきますか。

関口課長

説明が足りず申し訳ありませんでした。この用紙ですが、メモでご自由に書いていただいて結構です。ただし、皆様発言していただければ一番いいのですが、なかなか発言が難しい場合があるかと思います。その際に、ここに残していただいたメモを次回の会議の参考にさせていただきたいと思っていますので、記名の必要はございませんが、お手元に置いていただけたらありがたいと思っております。よろしく願いいたします。

庄司委員長

5分、時間をとりたいと思いますので、35分までメモで構いませんのでご記入いただけますか。認定こども園はどうしますか。裏に書いていただけますか。そのまま口頭でよろしいです

か。

田中課長

もし、ご意見がございましたら、裏面に書いていただければと思います。よろしくお願いします。

鈴木委員

一つだけ質問よろしいでしょうか。3校合併の時に東条はそのままとなれば、今現在50年近く建っている校舎、体育館は少し新しいですが、30年先を見据えているのだけど、東条小学校の校舎はもし3校と分かれた場合、どのように修理、建て直し、そのあたりの説明がほしいのですが。

庄司委員長

④の3校の既存学校施設、こちらに該当しますね。

鈴木委員

3校の方は新築として、東条小学校は現状のままということであれば、校舎自体は50年前後、体育館は少し新しいですけど、そのあたりをどのように見ているのか。校舎がもつのか。

佐々木学校環境整備室長

計画はございませんが、耐震補強的には問題はございません。平成21年度に約4億7千万円かけて大規模改修しております。計画はありませんが、雨漏り等が出てきておりますし、外壁の爆裂も多少出てきていますので、計画しながら30年改修しないわけにはいかないと思いますので、修理等していくことになると思います。

庄司委員長

5分以上過ぎていました。私は4つしか書けておりません。書いてくださったものをベースに質問して下さってもいいですし、書いてなくても質問して下さっても良いので、先へ進んでもよろしいでしょうか。4校でいいか、3校でいいかという意見を出せますか。出しにくい感じがしませんか。

小倉委員

資料1にある4校統合、3校統合に対してのメリット等が出されていますけれども、もう少し具体的にメリットとデメリットがはっきりしないと判断することが難しいですけれども。

庄司委員長

そう思います。ここで後ろにいらっしゃるオブザーバーの校長先生方に意見を聞いてみるのはどうでしょうか。大規模校、小規模校、色々と経験なさっていると思いますが、オブザーバーの校長先生方、指名するのはおこがましいのですが。

石井校長

東条小学校の石井です。よろしくお願いします。私は35年教員をやっております、多いところで4クラス、少ないところで全校28人と本当に小規模のところと経験させていただいております。今、話題にあがっている4学級と2学級あたりを比較したときに感じるものとしては、単学級の学校が2学級になることによって、資料にもありますように、複数学級がある良さは2学級でも4学級でも正直変わらないと思います。人数についても、4学級でも2学級でもその時の人数で、20人くらい25人くらいで組める場合と35人くらいで組める場合がありますから、きめ細やかなことができるかはその時の人数によって、これも同じかなと思います。ただ、2学級と4学級の違いで考えると、4学級の場合は学校が組織的に動く、つまり先生方の数も多くなり、一人一人の仕事の負担を分散できますので、組織的に多い学校はまわるかな

と思います。また、3学級4学級あると、学年毎が強くなりますので、各学年毎で4人とか5人とか相談する動きと、2学級だと2人で相談となりますので、学年毎の強さが違うかなと思います。切磋琢磨という意味では、これは人数が多い方が、色々な仲間と出会うことが出来ますし、色々な先生と出会うことが出来ますので、多様な考え方に会うことが出来る。また、切磋琢磨することによって、子ども達の一人一人を伸ばしていくことは考えられると思います。私の経験で、気になっている点は学級編成をする際に、1クラスだと小さい時から、1年から6年までずっと同じ仲間と過ごしていくので、その良さもあれば、そこで固定化された人間関係がなかなか変わらないです。2学級になると、シャッフルつまり、学級編成できますので、また違った人間関係を作ることが出来る良さが2学級にあると思っていましたが、やはり2学級くらいだと、どちらかという形になってしまうので、それ以上の広がり、3学級4学級だと本当にシャッフルされる考え方はできると思います。ただ、濃いか薄いかといえば、それは少ない人数で一緒に上がっていった方が濃さはあるなと思います。

最後ですが、皆様が中学校の方をイメージしていただくとわかりやすいと思いますが、4クラス以上ある小学校だと中学校の合唱コンクールや運動会など、各クラスで対抗する行事を持てるので、自分のクラスという絆、思いが強くなることも考えられます。本当に最後に、学習形態という意味では、職員が多く、子どもが多い方が、例えばグループ学習であったり、少人数学習だったり、習熟度別学習であったり、色々な分け方ができると思います。ただ、2学級も複数学級なので、できないかと言われれば、そういうことはありません。そういう差かなと今までの経験上思っております。また、具体的な質問等があれば、こんな様子ですと挙げたいと思います。

庄司委員長

ありがとうございました。具体的な話が聞けましたが、いかがでしょう。その他の意見はございますか。

前田校長

いつもお世話になっております。田原小学校の前田と申します。よろしく申し上げます。私も教員生活の始まりが千葉市でスタートしまして、海浜地区の大きな学校にいました。各学年4クラス、学年によっては6クラスありました。私の記憶では、その学校の時には例えば卒業式では、全校で体育館に来賓を交え、保護者を交えることがうかつ的に可能ではなかったので、1年生から4年生までは一旦登校し、先に6年生とお別れ式をして下校し、5年生のみ参加して、6年生と卒業式を行ったという記憶があります。5年生のみの参加なので落ち着いた雰囲気での式ではあったなと思います。2クラス、3クラスの学校では、体育館の広さにもよりますが、全校で6年生を送るので、あたたかい式ができた記憶があります。また、運動会では、4クラスの場合は全校で縦割りの競技など練習も難しいですし、そういうことは行っていませんでした。競技をするだけでなく見る楽しみもあったかなと記憶しております。今のような単学級や2クラス規模の学校では、全校縦割りみんな得点、赤も白もなく、みんなで仲良く楽しくという行事はやっていたように思います。2の生活面の4校統合についての学校全体での組織的な指導体制を組みやすいことと、一部少し相反することのニュアンスがあるかもしれませんが、確かに学年毎に動いていくものが多く、全校で動くことについては、動きにくさがありました。ただ何か学年でやっても、それだけの人数がいるので、それだけで十分に迫力のある行事を持てたと思います。2クラスであるとそのへんも、全校で動くことは可能になってくるかなと記憶しております。いずれにしろ、単学級の学級から統合して、複数学級になった場合には、教育面でいえば、良い面で競い合い、磨き合いがあつて、今のこの現状に甘んじるこ

となく伸びようとするような姿が見られるようになるかなと思います。また、複数学級でありますと、クラス替えがあります。クラス替えがあると、先ほど石井校長先生もおっしゃるように、人間関係に広がりですとか、変化の機会が生まれるというのがあるかなと思います。どうしてもこども園から小学校6年生まで同じでいると、言い方が悪いかもしれませんが、その子の位置や個性が固定化されてしまい、周りもそういう目でもちろん見るとは思います。本人も、そういうものだと受け入れてしまうことがあって変わる自分を変えようと思わない、変わろうとすることもなかなか難しいように思います。それは統合により、子ども達の可能性は広がるのではないかと思います。以上です。

庄司委員長

ありがとうございました。まとめません。30項目くらいありました。あと、お二人いかがでしょうか。

高梨校長

お世話になっております。西条小学校の高梨です。私も平成元年に教員になりまして、小規模校を経験しております。安房に戻ってきまして、和田町にありました上三原小学校では、スモールスクール校で複式を私は経験しております。1年生1名、2年生3名、複数の2学年を私1人で見ていました。その時には全校の児童は13名でした。私自身が統合を経験している人間でございます。上三原小学校が統合して北三原小学校ということで、その時13名の子ども達と私は統合要員として北三原小学校と一緒にになりました。その時に、北三原小学校でいたい全体で100名前後だったのでしょうか。13名の子ども達が一気に、10倍くらいの友達関係になりました。一番その時に私自身が思ったことは、子ども達自身はやはり13名しかいないということで非常に学校も子ども達も家庭的です。保護者とも非常に密になります。前に子どもがいると何を子どもが求めているのか、考えているのかを担任達もすぐにわかるので、あうんの呼吸で、表情を見れば、あっというふうに、今でいう子ども達にこれから求める力としては、自分の思いや考えを他者にしっかりと伝える。多様な仲間達と一緒に学びあながらよりよく高め合うものがこれからの学力、生きる力として求められるのですが、小規模校だと少人数だとどうしてもそういう機会を失ってしまう教育環境なので、その部分については、統合した学校へ行ったことによって、自分を出そうとする子どもの姿を私自身は体感しております。人間関係の序列ができてしまっている。速い子はずっと運動会では速い。絵が苦手な子はずっと絵が苦手のまま。おとなしい子はそのままおとなしい。というように、固定化された人間関係のまま1年生から6年生まであがっていたのが、少しずつ大勢の中に育まれる中で、変わっていたなと感じております。かたや、教員側のことを言います。教員達も実は、小規模校であろうが大規模校であろうが、分掌の数は同じであります。つまり、国語、算数、理科、社会、それ以外、生徒指導主任、図書主任や、保健主事など校内の中で課せられる役職が、小規模校であろうが、大規模校であろうか分掌数は変わりません。だけれども、小規模校は複数のいくつもの分掌を1人の先生が抱え、それを小規模校だけれども計画をし、職員会議で提案し、動くのです。出張数も大規模校よりも複数分掌を抱えているので、出張に行く回数は多いです。ですが、大規模校になればなるほど、分掌はその人数で頭割りをします。中には主任がいて、そこに副主任が2、3人入る。ということで、教科をやるにしても、みんなでよりよい教科指導をどうしたらよいかを考えられるのです。そういったところで、職員達の負担軽減など、いろんなことを考えていこうという組織、集団になっていくのかなと感じました。まとめませんが以上です。

庄司委員長

具体的な話、ありがとうございました。

三浦校長

鴨川小学校の三浦です。私は元々中学校の教員なので、初任校は学年7クラス750人くらい、中規模の学校でした。現在いる鴨川小学校が単学級なので私が経験した中で小さな学校です。それを踏まえて、お聞きください。まず、鴨川市の教育の政策の柱は小中一貫教育が挙げられています。ずっと昔から学区毎に、こども園からずっとあがって15年間子どもを育てていく、学区のどこを出たかによって、育つ子どもが違ってくることが、市の政策となっております。私は今、鴨川地区の小中一貫教育を担当しているのですが、その中で子ども達と教員にアンケートをとったところ、こういう回答がきました。中学生にあがるにあたり、6年生が不安に思っていることは何ですかというアンケートをとって、ほぼ全数回答でしたが、一番不安に思っているのは友達のことでした。楽しみなことといえば部活動のこと、このあたりがすごく出ていました。そこを解消するために、小中一貫教育をしていき、現在も交流事業等をしているのですが、そこを解消していくことが統合だと考えています。もう一つは、先ほどから3人の校長先生のお話にもありましたが、人間関係のことが非常に規模には大きいかなと思います。どこの学校にも学校に行くのがあまり得意でない子がいます。その子達が例えば一つにまとまってしまったら、自分の逃げ場がなくなってしまうこともあるので、限定しないでも、こっちの学校へ行ったら登校できたのという事例がありますので、複数の学校があることは非常に重要かなと考えています。ただし、学校の規模が大きくなればなるほど、個人の活躍する場は実は少なくなると思います。例えば300人1学年いる場合と30人の学年では自分の経験できる役職が違います。その分大変で苦手な子がいるかもしれませんが、人間関係の固定化とは逆になるかもしれませんが、そのあたりは頭に入りたいと考えています。それから、大規模な学校で例えば1学年200人300人いる学校ができた場合、私は7クラスの学校にいたので、1学年が1校というイメージです。意外と学年の感覚が強くあって、学校の中の縦の感覚が伝わりにくい事例がでてくる可能性があります。それから職員に関しては、先ほどからあったように、学級数に応じて増置教員数が決まっていて、小学校でいえば学級担任を持たなくていい教員が何人つくかここで決まっているので、それが何クラスになるかは課長より話が出ると思いますが、それによってどの程度の教員が子どもについていけるか、例えば12学級でもプラスアルファの20学級くらいでもそこまで変わらないかなという感じを私は受けております。例えば、習熟度別の学習をせよと文部科学省は言っていますが、そういうのを分ける時に、どの程度の職員がその学年に配当できるかは人数によって決まってくるので配置を考えていかないといけないと思います。これは私見で、これは学校でも子どもにもPTAにも話をしたことがあります。学校は何をしたらと考える時に、学校は世の中に出ていく基礎を作るところと、勉強するところの2つだといつも言っています。その基礎を作る中で、小さい単位が良いのか、大きい単位が良いのか、どっちも良いところ、悪いところあるかと思いますが、そこは考えなければいけないと思います。文部科学省が言っている日本型学校教育の中に、日本の学校教育の良さは何かといたら、学校が学習機会という役割と、人として成長するという役割があるとはっきり言っていますが、それをやっていくためには、規模がどういうところがいいのか議論になってくるかだと思います。まとめませんが、以上になります。

庄司委員長

ありがとうございました。意見を伺った後での皆さん委員さんからのご意見、これは小学校の4校3校の場合です。今日は時間で終われそうもありません。あと30分でこども園の方も

あります。園長先生方もいらっしゃるので、こども園の方は比較的わかりやすいようなお話でした。そちらの方も時間をとらなければなりません。今日は4校か3校かの結論を出すのでしょうか。出さなくてよろしいでしょうか。意見をいただくということで。意見のある方はこちらに書いていただいて、小学校について4校3校に絞って、もう少し校長先生方にお聞きしたい、事務局にも含めてですが、質問から入りましょうか。委員さん方が今まで育てこられた小中学校を思い出してでも結構です。興味本位でもよいですが、何かお話はありますか。

脇坂委員

田原小学校PTA代表脇坂と申します。的外れであれば申し訳ありませんが、例えば1校が2校になる場合は結構大きな差があるかと思いますが、今の議論は3校が適正か、4校が適正かというところに議論が移っていると思います。1、2については、私は3校だろうが4校だろうがそこまで差は感じないかなと思います。今日の話し合いでは、メリットのところが多く話にでています。私の感覚ではないですが、後々でも努力とか地域、学校、先生、努力をすればメリットはどんどん伸ばせるところがあると思います。デメリット特にハード面についてはなかなか払拭できないことも、改善できることもあるかと思いますが、デメリットの部分に、もう少し目を向けることも必要かと思います。3校と4校を比較した上でのデメリット、3校の場合のデメリット、4校の場合のデメリットにもう少し目を向けること。特に4、5については結構そういうところが関係していると思いますので、今回は少し厳しいと思いますが、次回の会議でもデメリットの面も少しあげていただくとありがたいと思います。以上です。

庄司委員長

論点に一つの方向性が出されましたが、その他ご意見ございますか。これは事務局がきちんと議事録をとってくださると思います。今論点の一つができました。その他どうでしょうか。

角野委員

鴨川小学校の角野です。お願いします。今、脇坂委員からのお話にもありましたが、3校4校の差が私にはよくわかりませんでした。おっしゃったようにメリットしか触れられていません。先ほど庄司委員長からお話がありましたが、私が中学生の時は8クラスありまして、厳しい学年主任がいた中で、小学校は3クラスありまして、3クラスもきつい中で、本当は4クラスあった方がいいのではといった中で学生生活を送っておりました。現在では、クラスが少なくなり、活動の内容も少なくなり、グループワークもなく、コロナになり、余計に何もなくなり、何か言い訳にしては何もできていない気がしております。私は、3校4校で悩むのであれば、完全に4校統合を希望したい。ここで決まるわけではないですけれども、1番始めに冒頭で校舎の改修についてお話がありました。東条小学校について、50年近く経っていて、何もしていない中で、耐震が大丈夫ですといっても3校統合した学校をみれば、東条小学校から見たら、あちらの学校は素敵だと思うと決まっております。どんなに年をとっている先生がいても、3校にいる先生よりも4校にいる先生の方が素敵に見えてしまうと思います。それでしたら、思い切って4校統合に向けていった方がよいと思います。今、鴨川地区のお話ですが、ゆくゆく鴨川市は人口が増えるのでしょうか。人口はこれ以上右肩上がりに上がっていくとは思えません。おそらく鴨川市は一つの学校になるのではないかと思います。天津も、江見も、どこも一つの学校に集結することを考えるのであれば、素敵な学校を構えてくれたらなと少し思いました。

庄司委員長

30年後という言葉があると、どうしても長狭も江見も天津も視野に入ってきている方が実は

いると思います。それはご意見としていただいております。もう少し3校4校についてご意見あれば伺います。難しければ先送りにします。

座間委員

各小学校の校長先生が非常に的をえた説明をしていただいております。大規模校の強み、3校統合でもそこまで劣ることはないとお話をいただきました。事務局の方から最初にいただいた資料の中で、令和35年の人数、そこまで試算していただいたわけですが、各学年100人を超える小学校の規模、先ほどのプラスの部分で学習指導面では、教員のお互いの色々な話し合いの中で指導を進めていくことで、各学年1人の担任でやるよりは絶対に指導のレベルは上がると思います。間違いなく上がると思います。小さな学校でも、これは小学校でも中学校でも同じだと思いますが、小さな学校の学習指導の弱さはそこにもあると思います。では、各学年100人を超える規模の学校が、先ほど鴨川市の教育目標、子ども達を育てる指標に合っているかという点、私はいかがなものかだと思います。小学校の強みのもう一つは、小学校1年生から6年生までの非常に異年齢、特に大きな発達段階の違う子が一緒に学べるところで、得るものは大きいかと思います。中学校3年、高校3年ですけど、今その縦のつながりは非常に弱いと思います。ぜひそのあたりは小学校の強みとして活かしてもらえればと思います。

統合を私自身も南房総で、中学校の統合の3年目から経験しましたが、人数が多くなることは強みです。学校の子どもの伸びる姿を目の当たりにしました。とても大事なことだと思います。もう一つ人口の話が出ましたが、鴨川市の、これは教育委員会の政策ではなく、全体の政策になるかと思いますが、移住など子育て世代がこちらに入ってくる、そのあたりを考えたときに、この鴨川市で子育てがしたいかという環境は作っておくべきだと思います。私が木更津で昔勤めていたときに金田地区、今では栄えていますけれども、橋ができてそこまで人数は増えませんでした。金田小学校と金田中学校が側にありますけれども、もしかすると1クラス、もしかすると廃校になるかもしれないくらいの勢いでありました。アウトレットができ、移住が増え、まさに今までの学校規模の校舎では入りきれなくなりました。これはぜひとも鴨川市の市政の方でも進めていただければ、これは県の方、国の方でもそうだと思います。最初に戻りますが、鴨川の小学校としての規模、こういった子ども達を育てるのかを考えたときに、学区学年100人規模が適正かどうかを検証してもらった方がいいかと思います。以上です。

庄司委員長

ありがとうございました。ご意見をもう少しいただければと思います。

小倉委員

これは今、学校の統合に向けた話だと思いますが、国の政策もありますが、学校と保護者、地域が連携して今現在、学校運営協議会や地域学校協働本部などをやっております。統合していったときに地域と学校と、今現在でもかなり活動することが大変になっており、地域のつながりと学校のつながりが希薄になってきております。学校の施設設備を維持していくために行っていく活動もなかなか難しくなっており、保護者の共働きも増え、色々な仕事の形態もあります。なかなか参画しづらい中で地域と協力していく時に、統合していったときにそのあたりの地域とのつながりなど、実際過去に統合されたところでどのようになっているのかを全然漠然としておりますのでわかりません。こういった事例など、もしわかる範囲で経験された方がいらっしゃれば教えていただければと思います。

庄司委員長

4校3校だけでなく、それを取り巻く状況、人口の問題、今の問題。それから地域との連携

の問題など、これはそれぞれの学校、今の地域の伝統などの話が出てきます。そのあたりも決め手に欠けるかもしれないですが、こういった周辺の話も一応いただいてもいいのかなと思います。

小倉委員

例えば、3校とすると、東条小学校が残りますが、東条小学校以外のところが合併してそのあたりがどう変わっていくかがよく見えません。そのあたりがどうなっていくのかというのを漠然と今お話を聞きながら思いました。

庄司委員長

そのあたりは他の委員さんの話とだぶってきます。3校が新校舎になり、東条小学校の子ども達はあの新校舎に入れず、同じようにこのままでよいのか、地域の人たちがどう思うか、色々な思いが当然出てきます。それを乗り越えたお話、あるいはそれを含めたお話をいただければと思います。不安材料として十分にある。

小倉委員

後でなくてもよいので、次回の時にそのあたりの他のところの地域の実態などわかる範囲で教えていただけると一つの指標にはなるかなと思いますのでお願いしたいと思います。

庄司委員長

学校というこのシステムの中だけの問題とその周辺の問題とこれが今出てきております。学級崩壊がどちらで起こるか。大規模校で起きるのか小規模校で起きるのか。過去にもありましたし、大問題であった時期がありました。それも色々あると思います。今8時15分になりました。別に時間で切るわけではありませんが、8時半と始めに佐々木室長が言いましたので、私はすごくそれを気にしていたところでございます。田中課長、こども園の方は意見いただいておりますか。それとも園長先生方は発言しにくいですかね。先ほどのお話では、行事の時、災害の時など小学校との隣接が良いという一つの方向性は出ました。OURSはOURSとして、他は小学校の隣接が良いとの提案がありました。私もそうだなと思います。子育てしていると、あちらこちらとなると大変になるとは思いますけれども、残りの15分でこども園の方もご意見伺ってよろしいでしょうか。

蛭子委員

OURSは統合しないということで、3園統合することにより施設も変わると思いますが、在園児数やクラス数がどれくらいになり、それに対して先生がどれくらい配置されて、よりよく子どもを見てもらえたり、今一時預かりはOURSしかなかったかと思いますが、増やしていただけるのであれば、一時預かりを利用しやすくなると思います。先生が統合をして余剰が出るのであれば、地域で働いていないから入れない年齢のお子様など一時的に預かってほしい親御さんのニーズに答えることができるかどうかを知りたいと思います。

田中課長

先ほどの配置基準に関してのお話をさせていただきましたが、例えば、0歳の子ども達は1人の保育教諭に対して3名までしかみることができないという国の決まりがあります。例えば、田原こども園に0歳児の子が1人、鴨川こども園に0歳児の子が1人、西条こども園に1人とすると3人先生をつかってしまうのですが、そこが一つの園になると1人の先生で、単純なものです。なかなか0歳で園に入るのはなかなか読めないですが、そうすると先ほどお話しした、保護者のニーズにあった、言い方が悪いですが、2人保育教諭が余剰ではないですが、できるということでもう少し子どもを預かれる。ただ、国の基準で1人に対しての面積数もあり

ますので、その大きさを定員を決めていかなくてはいけないので、そのあたりを一つの園にした方が、保護者の方のニーズにあった保育と教育ができるかなと感じております。よろしいでしょうか。

荒井委員

もし、小学校が4校統合となった場合はOURS一園が残ることが懸念されるとありますが、OURSは私立であるので別であります。今ある3校を統合した鴨川、西条、田原を統合して4校統合した学校にくっつけるという考えにはならないのでしょうか。東条はOURSを管轄している、東条の子どもは全員OURSに行っている訳で、そうすると公立のこども園がなくなる形になってしまう。4校統合によりみんなOURSに行ってしまうと。その場合に3園統合した園を作るということは難しいのですか。

田中課長

3園の統合とOURSは残さなくてはならないと思っております。今の数でいいますと3園の子どもはOURSに入れません。定員ではオーバーしてしまうので、全員はOURSに行けないので、OURSは私立の園であるので残し、小学校が4校でも3校でも3園でくっつけて学校の敷地内が理想なのですが、それも確実かはわからないので、子ども支援課としての理想はそういうことになります。

荒井委員

この書き方だと、1園が残る可能性があるのかなと思いましたが。

田中課長

例えば、4校が一緒になるのであったらOURSが残ってしまう可能性が、東条小学校のまわりに来るのか、それはわかりませんが、OURSは1園残ってしまうのですが、近くに小学校がなくなってしまう可能性があるのです。それは懸念されるのですが。

荒井委員

わかりました。1園だけ別の場所に行くことはないですね。

山下委員

現状で教えていただきたいのですが、共働きの家庭で子どもを預けたいとなったときに、園に預けたいとなったときに、希望の園に入れたいお子さんは今どのくらいいるかわかりますか。

田中課長

今、資料がないのではっきりした数はわかりませんが、子ども支援課としては、まずきょうだいなどいれば、例えば田原と西条に分けるようなことはなるべくしないようにしています。定員や先生の数によって仕方なく分かれてしまう場合もあります。この園しか行かないと1園だけを希望する方もいらっしゃるのです。その時は、例えば西条を希望しているところを天津小湊はどうですかとお尋ねした時に、うちは西条でなければ困るという場合は待つていただくこともあります。

山下委員

待機児童はいらっしゃるのでしょうか。

田中課長

その数は今わからないのですが。

山下委員

いることはいるということでしょうか。

田中課長

はい。

山下委員

わかりました。

荒井委員

もう一つよろしいでしょうか。今、待機児童という話がありましたが、もしOURSと認定こども園1園だけとなった場合に、公立の認定こども園に入れないので、OURSに行くしかないということもあり得るということでしょうか。

田中課長

公立の3園が1つになっても、天津小湊と江見と長狭があります。学校と違うのは学区がありません。例えば勝浦にお勤めの方が、天津小湊の園に預けていくパターンもあると思います。例えば市内に住んでいらして天津小湊に預けて勝浦にお仕事に行かれて、勝浦から帰り迎えというパターンもあります。学区がないので、OURSに入れなくても、最後どのようなかたちになったとしても、4園の公立園があるという形になると考えています。

庄司委員長

さて、質問、ご意見出し切れな方いますか。残りの5分で質問、ご意見を出し切れなかった方、お書きいただけますか。それを残して今日はお帰りいただくことでよろしいでしょうか。

鈴木教育長

私から最後に一つよろしいでしょうか。貴重なご意見ありがとうございます。様々なご意見をいただきましてこれからというところだと思います。一つ私が感じていることをお話させてください。第1回の時に、皆様には理想論でお話してくださいと申し上げました。ですので、あまり先入観に捉われるような条件などは言わなかったと思います。今日は、皆様からのご意見をいただきますと、学校名など具体的な話が出てきているところでございます。先ほど小倉委員さんより発言がありまして、私が感じたこと、それは何かと言いますと、全国津々浦々探せば実例があると思います。実際に統合問題に直面し、こういう成功があった、失敗があったという実例があると思います。これを一生懸命探しまして皆様にご提示し、次回お示ししたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。よろしく願いいたします。

庄司委員長

ありがとうございました。少し消化不良感ですが、これで今日のところは課題山積のような、まだまだ言い足りないと思いますが、一旦閉めまして、今教育長からのお話のような状態で次回、あるいはデメリットの話など、そういった資料が整いましたらお願いします。(1)鴨川地区小学校、認定こども園の適正規模の検討を閉じさせてもらってよろしいでしょうか。

委員 「異議なし」の声あり。

庄司委員長

はい、ありがとうございます。議事の(2)その他がまだ残っております。委員の皆様、消化不良のところがあるかもしれませんが、何かありましたらよろしくお願いします。なければ関口課長よろしくお願いします。

関口課長

それでは事務局より、2点、ご連絡させていただきます。1点目は、次回会議についての確認をさせていただきます。次回会議は、第2回の会議資料に掲載させていただいた日程の通り、11月1日水曜日、午後7時から、天津小湊支所3階会議室、この場所での実施を予定させていただいておりますので、よろしくお願いします。2点目です。冒頭で資料1の比較表に書き込んでいただいているということをお願いしてあります。1行でも2行でも結構です。書いていただ

けたら、この場に置いていただけたらと思います。明日以降、また何かご不明な点、ご質問等ございましたら、遠慮なく学校教育課事務局の方までお問い合わせいただけたらと思います。また、足を運んでいただいて、直接お話していただいても結構です。気になる点等がございましたら遠慮なくおっしゃっていただけたらと思いますのでよろしくお願いいたします。私からは以上2点でございます。

庄司委員長

ありがとうございました。本日の予定しておりました議事はここで閉じさせていただきます。本日の会議を終了したいと思いますが、ご意見ございませんでしょうか。ありがとうございました。それでは事務局にお返しいたします。

佐々木学校環境整備室長

本日は、長時間にわたり、慎重なご審議をいただきまして、ありがとうございました。それでは、以上をもちまして、本日の会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

(午後8:30 会議終了)

本会議の内容を確認したので署名する。

令和5年11月1日

会議録署名人 井藤 機 句 男